



# Nexus ダッシュボードのアップグレード

- [前提条件とガイドライン \(1 ページ\)](#)
- [Nexus ダッシュボードのアップグレード \(2 ページ\)](#)

## 前提条件とガイドライン

既存のNexusダッシュボードクラスタをアップグレードする前に、次の手順を実行します。

- アップグレードに影響する可能性のある動作、ガイドライン、および問題の変更については、ターゲットリリースの[リリースノート](#)を必ずお読みください。

アップグレードプロセスは、すべての Nexus ダッシュボードフォーム ファクタで同じです。物理サーバ、VMware ESX Linus KVM、またはAzureまたはAWSを使用してクラスタを展開したかどうかに関係なく、ターゲットリリースのISOイメージを使用してアップグレードします。

- 既存のクラスタで実行するサービスのリリースノートを確認し、アップグレードに影響する可能性がある動作、注意事項、問題でサービス固有の変更について対象のリリースで実行を計画するようにしてください。
- このリリースにアップグレードするには、Cisco Nexus Dashboard リリース 2.0.1d 以降を実行する必要があります。

Cisco Application Services Engine を実行している場合は、このリリースにアップグレードする前に、[Cisco Nexus ダッシュボード展開ガイド](#)、[リリース 2.0.x](#)の説明に従ってNexusダッシュボードにアップグレードする必要があります。この場合、Application Services Engine クラスタをNexusダッシュボードリリース2.0.2hにアップグレードしてから、このリリースにアップグレードすることをお勧めします。

- 有効な DNS および NTP サーバーが構成され、すべてのクラスター ノードから到達可能である必要があります。
- 現在の Nexus ダッシュボードクラスタが正常であることを確認します。

Nexus ダッシュボード GUI の **[システム概要 (System Overview)]** ページでシステムの状態を確認するか、`rescue-user` としてノードの1つにログインし、`acs health` コマンドを実行して `All components are healthy` が返ってくることを確認します。

- アップグレードの前に、既存の構成のバックアップを作成することをお勧めします。
- Nexus Insights サービスを実行している場合は、アップグレードの前に無効にし、アップグレードが正常に完了した後に再度有効にする必要があります。  
サービスを無効にした後、アップグレードを続行する前に、クラスタが安定して正常であることを確認してください。
- アップグレードが進行中にワーカーまたはスタンバイノードを追加するなど、設定変更がクラスタに対して行われていないことを確認します。
- リリース 2.1.1 以前からアップグレードする場合は、新しいイベント モニタリング ページを UI に正しく表示するために、ブラウザのキャッシュをクリアする必要がある場合があります。
- このリリースにアップグレードした後に、すべてのアプリケーションを最新のバージョンにアップグレードすることを推奨します。  
Nexus ダッシュボードとサービスの相互運用性サポートの完全なリストについては、「[Nexus ダッシュボードとサービスの互換性マトリクス](#)」を参照してください。
- このリリースからのダウングレードはサポートされていません。

## Nexus ダッシュボードのアップグレード

ここでは、既存の Nexus ダッシュボード クラスタをアップグレードする方法について説明します。

### 始める前に

- で説明している前提条件をすべて満たしていることを確認します。 [前提条件とガイドライン \(1 ページ\)](#)

---

**ステップ 1** Nexus ダッシュボードイメージをダウンロードします。

- a) [ソフトウェア ダウンロード (Software Download) ] ページを参照します。

<https://software.cisco.com/download/home/286327743/type/286328258>

- b) ダウンロードする Nexus ダッシュボードのバージョンを選択します。  
c) ターゲットとするリリース用の Cisco Nexus ダッシュボードイメージをダウンロードします。

- (注) • Nexus ダッシュボードが Red Hat Enterprise Linux に展開されている場合は、.tar イメージ (nd-rhel-<version> .tar) を使用してアップグレードを実行します。

RHEL の展開の詳細については、既存の Red Hat Enterprise Linux インストールでの展開を参照してください。

- 他のすべてのフォームファクターについては、.iso イメージ (nd-dk9.<version>.iso) を使用してアップグレードを実行します。

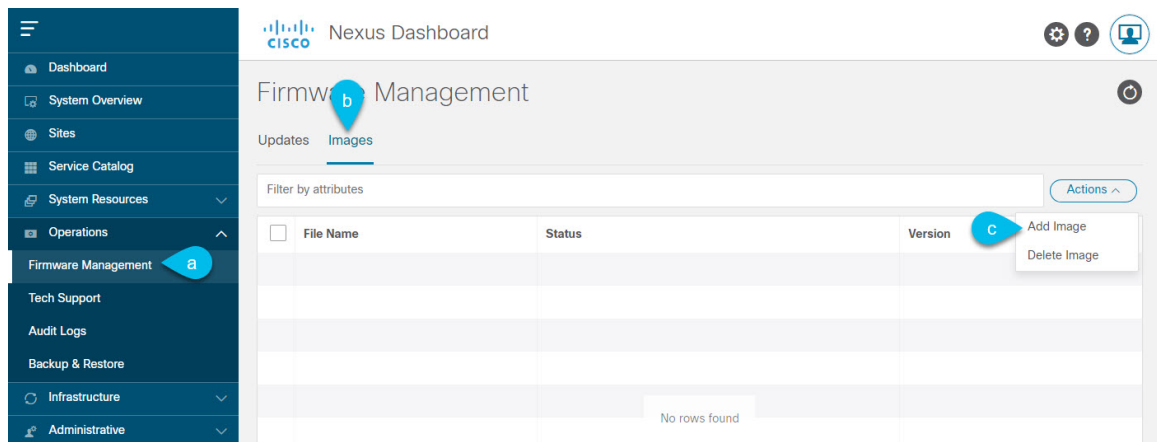
たとえば、最初の展開で仮想フォームファクターを使用していた場合 (VMware ESX での展開のための .ova イメージなど)、またはクラウドプロバイダーのマーケットプレースを使用していた場合であっても、アップグレードでは .iso イメージを使用する必要があります。

- d) (オプション) 環境内の Web サーバでイメージをホストします。

イメージを Nexus ダッシュボード クラスタにアップロードする場合、イメージに直接 URL を指定するオプションがあります。

**ステップ 2** 現在の Nexus ダッシュボード GUI に管理者ユーザとしてログインします。

**ステップ 3** 新しいイメージをクラスタにアップロードします。



- a) [Operations (オペレーション)] > [ファームウェア管理 (Firmware Management)] に移動します。  
 b) [イメージ] タブを選択します。  
 c) [アクション (Actions)] メニューから、[イメージの追加 (Add Image)] をクリックします。

**ステップ 4** 新しいイメージを選択します。

- a) [ファームウェア イメージの追加 (Add Firmware Image)] ウィンドウで、[ローカル (Local)] を選択します。  
 または、ウェブサーバでイメージをホストした場合は、代わりに [リモート (Remote)] を選択します。  
 b) [ファイルの選択 (Select file)] をクリックし、最初の手順でダウンロードした .iso または .tar イメージを選択します。

RHEL での展開の場合、.tar ファイルを使用してアップグレードします。他のすべての展開ファクターの場合、.iso ファイルを使用します。

リモートイメージのアップロードを選択した場合は、リモートサーバ上のイメージのファイルパスを指定します。

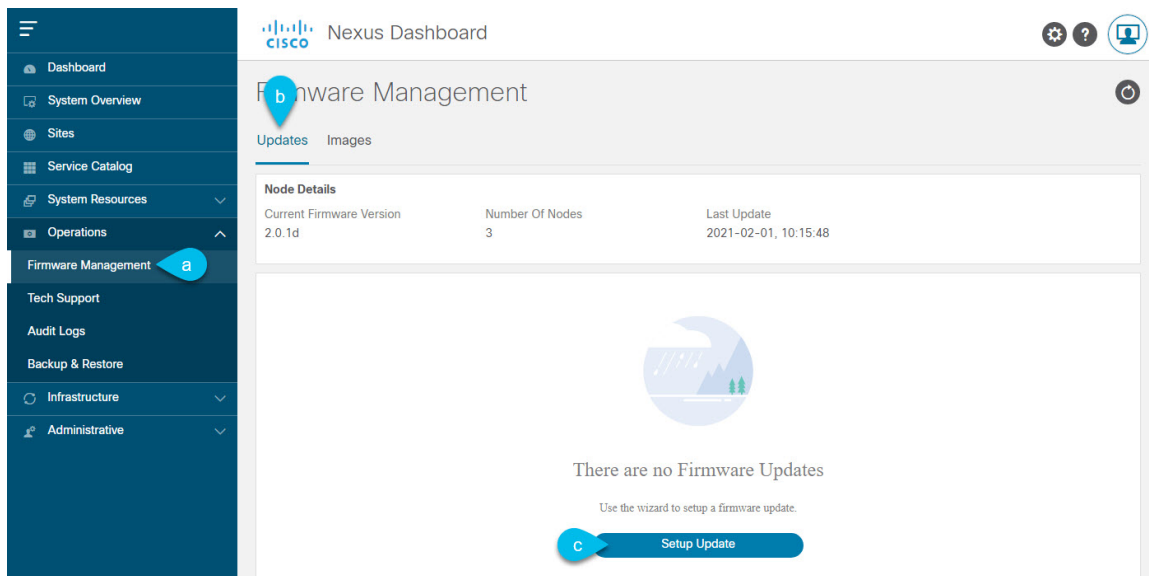
- c) [アップロード (Upload)] をクリックして、イメージを追加します。

イメージが Nexus ダッシュボード クラスタにアップロードされ、解凍されて処理され、アップグレードに使用できるようになります。プロセス全体に数分かかる場合があります、[イメージ (Images)] タブでプロセスのステータスを確認できます。

**ステップ 5** イメージステータスが「ダウンロード済み」に変わるのを待ちます。

イメージでイメージのダウンロードの進行状況を確認できます。

**ステップ 6** 更新を設定します。



- a) [Operations (オペレーション)] > [ファームウェア管理 (Firmware Management)] に移動します。  
 b) [更新] タブを選択します。  
 c) [更新のセットアップ (Setup Update)] をクリックします。

[ファームウェアの更新 (Update Firmware)] ダイアログボックスが開きます。

**ステップ 7** アップグレードイメージを選択します。

- a) [ファームウェアの更新 (Firmware Update)] > [バージョン選択 (Version selection)] 画面で、アップロードしたファームウェアバージョンを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。  
 b) [ファームウェアの更新 (Firmware Update)] > [確認 (Confirmation)] 画面で、詳細を確認し、[インストールの開始 (Begin Install)] をクリックします。

インストールの進行状況ウィンドウが表示されます。更新中は、この画面から移動できます。後で更新ステータスを確認するには、[ファームウェア管理 (Firmware Management)] 画面に移動し、

[最終更新ステータス (Last Update Status)] タイルで [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。

これにより、必要な Kubernetes イメージとサービスが設定されますが、クラスタは新しいバージョンに切り替わりません。次の手順で新しいイメージをアクティブ化するまで、クラスタは既存のバージョンを実行し続けます。このプロセスは、全体で最大 20 分かかる場合があります。

**ステップ 8** 新しい画像をアクティブにします。

- a) [オペレーション (Operations)] > [ファームウェア管理 (Firmware Management)] 画面に戻ります。
- b) [最終更新ステータス (Last Update Status)] タイルで、[詳細の表示 (View Details)] をクリックします。
- c) [Activate] をクリックします。
- d) [アクティブ化確認] ウィンドウで、[続行] をクリックします。

すべてのクラスタサービスが起動し、GUI が使用可能になるまでに、さらに最大 20 分かかる場合があります。このページは、プロセスが完了すると、自動的に再ロードされます。

**ステップ 9** VMware ESX に展開された仮想クラスタをアップグレードした場合は、ノードを新しいプロファイルに変換します。

(注) リリース 2.1(1) 以降からアップグレードした場合、またはクラスターが別のフォーム ファクターを使用して展開されている場合は、この手順をスキップしてください。

リリース 2.1(1) 以降、Nexus ダッシュボードは、VMware ESX に展開された仮想ノードに対して 2 つの異なるノードプロファイルをサポートします。アップグレード後、既存のクラスタのすべてのノードを新しいプロファイルの 1 つに変換する必要があります。

- **データ ノード** : Nexus ダッシュボード Insights などのデータ集約型アプリケーション向けに設計されたノードプロファイル
- **アプリ ノード** : Nexus ダッシュボード Insights などのデータ集約型アプリケーション向けに設計されたノードプロファイル

選択するプロファイルは、使用例のシナリオによって異なります。

- Nexus ダッシュボード オーケストレータ サービスのみを実行する予定の場合は、すべてのノードをアプリ ノードプロファイルに変換します。
- Nexus ダッシュボード Insights または共同ホストアプリケーションを実行する予定の場合は、ノードをデータ プロファイルに変換する必要があります。

ノードを新しいプロファイルに変換するには、そのプロファイルを使用して新しいノードを展開し、既存のノードを一度に 1 つずつ置き換えます。

- a) ノードの 1 つを停止します。  
一度に 1 つのノードを置き換える必要があります。
- b) VMware ESX に新しいノードを展開し、OVF 展開中にアプリまたはデータプロファイルを使用します。

新しいノードを展開するときは、置き換えるノードとまったく同じネットワーク設定パラメータを使用する必要があります。

- c) 既存の Nexus ダッシュボード GUI にログインします。  
残りの正常なマスター ノードのいずれかの管理 IP アドレスを使用できます。
- d) 左側のナビゲーション ペインから、[システム リソース (System Resources)] > [ノード (Nodes)] を選択します。  
交換するノードが [非アクティブ (Inactive)] としてリスト化されます。
- e) 置換する非アクティブ マスター ノードの隣にある (...) メニューをクリックして、[置換 (Replace)] を選択します。  
[置換 (Replace)] ウィンドウが開きます。
- f) ノードの管理 IP アドレスとパスワードを入力し、[確認 (Verify)] をクリックします。  
クラスタは新しいノードの管理 IP アドレスに接続し、接続性を確認します。
- g) [置換 (Replace)] をクリックします。  
ノードが設定されてクラスタに参加するまでに、最大で20分かかる場合があります。
- h) クラスタが正常になるのを待ってから、他の2つのノードに対してこの手順を繰り返します。

**ステップ 10** 同じクラスタで複数のアプリケーションをホストしている場合は、App Infra Services の展開プロファイルを設定します。

Nexus ダッシュボード クラスタで単一のアプリケーションのみをホストしている場合は、この手順をスキップします。

同じクラスタに複数のアプリケーションをホストする場合は、アプリケーションとファブリック サイズの組み合わせに適した展開プロファイルを使用して、App Infra Services を設定する必要があります。

クラスタのアップグレードが完了したら、『[Cisco Nexus Dashboard User Guide](#)』の「App Infra Services」セクションに記載されている手順に従ってください。このガイドは、製品の GUI から入手できます。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。